



ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。

① 言語運用能力

全学共通科目では既修外国語と初修外国語によって基礎となる語学力向上を図ります。さらに、既修外国語のアドバンス科目を履修してさらなる語学力向上も可能であり、言語を通して国際的視野を持つように準備します。情報収集の基礎技術については「情報リテラシー」によって獲得します。少人数の体験学習による演習科目、学内・学外機関・施設における見学・実習科目によって、人間性を尊重した対人支援の態度や共感的コミュニケーション能力、クライアントや患者を中心として多職種間で連携・協働できる能力を身につけます。

② 知識・理解（21世紀型市民及び学士（臨床心理学）として）

現代社会を生きる上での幅広い教養及び基礎的知識を獲得するために、全学共通科目の「学問への扉」や「学問基礎科目」を学びます。また、心理援助者に求められる基本的知識や理解を獲得するために、専門基礎科目及び専門科目を履修します。それらの科目は、心理学・臨床心理学を体系的に学ぶための心理系科目、医学の基礎についての医学系科目、社会福祉や関係行政に関する社会学系科目に分かれています。講義科目に加えて、演習科目や実習科目を通じて心理援助者が必要とする知識・技能を身につけます。さらに、教育の基礎に関する教育学系科目を自由科目として学べます。医学を心理学・臨床心理学と並行して学習することで、身体と精神が相互に関連していることを理解するとともに、心理援助者にとって重要な疾患や障害についての知識を習得します。見学・実習科目によって、さまざまな職場で、そこで働く多職種との間で連携・協働する心理援助者の役割について学習します。「臨床心理学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」、「臨床心理学研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」で、臨床心理学の知識・理解を統合的に活用する能力を培います。

③ 問題解決・課題探求能力

全学共通科目の「大学入門ゼミ」や「主題科目」では問題解決・課題探求の基礎的な方法を学びます。また、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」、「心理学統計法」、「心理学研究法」で、心の問題に対する実証的な研究方法（量的研究、質的研究）を身につけます。そして、演習科目や実習科目での体験を振り返ることや実習発表会等を通して、心理臨床に関する問題解決・課題探求能力を培います。さらに「臨床心理学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」、「臨床心理学研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」で、自らテーマを設定することにより問題解決の力、課題を探求する力を向上させます。

④ 倫理観・社会的責任

全学共通科目の「ライフデザイン」において、21世紀型市民としていかに生きるかを学びます。「生命倫理学」、「臨床心理学概論」、「社会福祉論」等の講義科目と共に実習科目を通して、心理援助者における倫理観・社会的責任を身につけ、社会人としての役割を担うことを学び、さらに専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を培います。また、「公認心理師の職責（心理師実践機能論）」、「関係行政論（社会医学・関係行政論）」においては、心理臨床における倫理や関係法規について学びます。「人間性心理学」では、人間性の尊重と支援について学びます。

⑤ 地域理解

全学共通科目の「ライフデザイン」や「特別主題（地域）」で地域理解への動機づけがなされます。学外機関施設での見学や実習を通して、地域社会における保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野等の現状と課題を学び、心理援助者の職務内容と関連付けて理解するとともに、心理援助者の地域コミュニティ活動の実際について学びます。